

## 第 29 回大島地区高等学校総合文化祭への取組

～生徒・職員で創り上げた感動の輪～

春田 紗也加（芸術科（音楽））

### 1 はじめに

今年度、高文連大島支部の事務局を本校が担当することになった。主な業務の一つが、この大島地区総合文化祭の企画・運営である。（以下、総文祭とする。）この総文祭は、大島地区の高文連加盟校（大島、奄美、大島北、古仁屋、喜界、徳之島、樟南第二、沖永良部、与論、（今年度より）大島養護学校）が一同に集まり、文化系部活動等を中心に日頃の活動の成果を発表し、交流を図るということが目的であり、今年度で開催 29 回目を迎えた。

開催に至るまで、生徒・職員で取り組んできたことや過程について記録に残そうと思う。

### 2 具体的な取組について

#### (1) 4月～5月

##### ア 生徒実行委員会の立ち上げ

最初に組織作り。各部活動から 1～2 名実行委員を選出し、顔合わせを行った。

吹奏楽部 2 名、美術部 2 名、文芸部 2 名、郷土芸能部 2 名、工業技術研究部 1 名 計 10 名 ※放送部は第 2 回実行委員から 1 名参加。
--

学年も違い、普段慣れないメンバーに緊張が隠せない様子の生徒たち。「この実行委員会が主となり、各部活動へ情報を共有して全体を動かしていこう。」と話す、「私たちにできるかな・・・」という不安な気持ちのメンバーの方が多かったように感じる。しかし、いざ話し合いが始まると、考えは浅いところはあるが、それぞれが意見を出し合うなど、想像以上に活発に話し合いが行っていた。もしかしたら「やるっきゃない。」と腹をくくったのかもしれない。

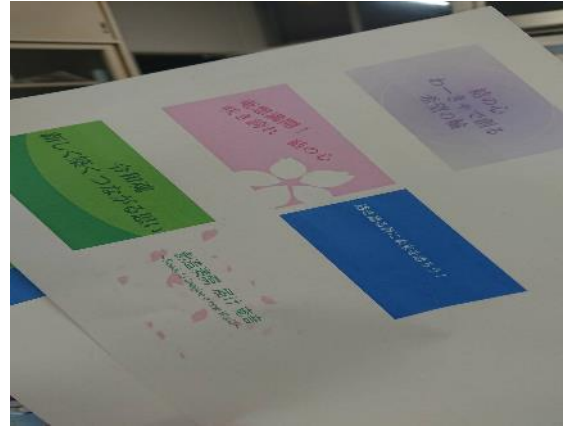
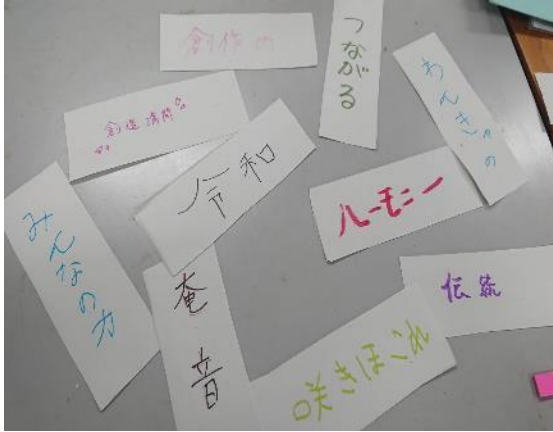
最後に生徒に伝えた。「どうせやるなら、楽しく！」ちなみに私のモットーである。

##### イ 大会テーマ・テーマソング・テーマカラー募集・決定

「テーマどうする～？」実行委員長と副委員長を中心に話し合いを行う。過去のテーマを見ながら考えるが、なかなかバツと出ない。しかし、キーワードをカードに書いて組み合わせる方法を取ってみると、意外と手が動いた。「奄音」「奄創満開」「島人魂」「令和」「咲き誇れ」「Run In the World」など独創的なキーワードがたくさん出てきた。（写真 1）奄美高校としては、令和初の総文祭で横文字が格好いいのではという意見で「創造満開 届け 奄音～Run In the World～」ステージ・展示と様々な芸術文化が開くようにという意味を込めて「奄想満開！咲き誇れ 結の心」の 2 つを候補にした。

同行事を一緒に担当する古仁屋高校とも話題を共有した。古仁屋高校は、参加する部活動は吹奏楽部と書道部の 2 つだけだが、15 個も大会テーマの案を考えており、発想力の高さに驚いた。2 校で 5 つにアイデアを絞り、各学校各部活動へアンケートを実施した結果、「結の心 わーきゃでつくる 希望の輪」に票が集まった。（写真 2）「奄美の島人が大事にしている結の心。私たちがそれを受け継ぎ、みんなで手を取り、一丸となって創り上げよう」という気持ちが込もっ

たテーマである。テーマソングは、出版されている吹奏楽&合唱版の楽譜リストを見て音源を聞きながら、NHK 合奏コンクールの課題曲ともなった嵐の「ふるさと」に決まった。また、例年はなかったが、テーマカラーがあるとポスターやパンフレットのイラストも描きやすく、統一感がでるという美術の上床教諭の助言もあり、設けようという話になった。テーマに入っている「輪」から連想できるキーワードとして「地球」が挙がり、「瑠璃色にしよう！」と勢いよく決定した。



【写真1】生徒たちから出たキーワードが並ぶ

【写真2】テーマの具体的イメージ案を作成

#### ウ 職員実行委員会の立ち上げ

生徒実行委員会と同時に職員実行委員会も立ち上げ、高文連文化系部活動の顧問を中心に組織した。演劇部や商業クラブなど、部員数の少ない部活動顧問にも協力を要請し、できるだけ多くの人数で協力、分担できるようにした。古仁屋高校も同様に全顧問入っていただいた。また、5月下旬には第1回大島支部委員会を行い、地区の高文連担当者に情報を共有した。

#### (2) 6月～8月

部門ごとに内容の検討

#### (3) 9月～10月

各学校へ公文発送

本校生の動員について検討

島内5市町村教育委員会・マスコミへ後援申請

部門ごとの参加者、舞台計画書集約、展示作品数集約等

#### (4) 11月～12月

##### ア オープニングをやってみよう？

ステージプログラムを立ててみると、「どこを1番目にもってこよう？」と悩んだ。過去の大会の分を調べてみると、どこもエイサー隊や太鼓部をもってきていた。おそらく、ステージ上で使用する道具の出し入れが少なく、次へのセッティングがスムーズに行くようにするためである。さらに、担当校が毎年トップバッターを飾っている。「奄高にも古高にもエイサー隊はないなあ。郷土芸能部を最初にもってきてもいいけれど、最初だし派手にスタートを切らせたいな・・・」そ

う考えていた。今回はどこの高校も吹奏楽部が合同で演奏し、少し時間にゆとりがあることから、折角なので展示の書道や美術もパフォーマンスするのはどうか？と生徒に投げかけてみようということで奄高・古高の芸術科内で話がまとまった。

生徒の反応は、想像以上に賛成の意見が多く、「面白そう。」という声が聞けた。「横断幕の字数をどうするのか」、「どんな装飾がよいのか」など黒板にイメージを描きながら案を出し合う。書道部と美術部だけの発表ではなく、全部の部活動が何らかのかたちで関わればどんなに素敵なものになるかと想像が膨らむ。およそ10分という限られた時間の中でどれだけのものを魅せることができるかと若干不安がよぎりつつも、チャレンジしてみようと結束した。(写真3)



【写真3】 実行副委員長が会の記録を板書

#### イ 自分たちで宣伝①

12月中旬、ポスターが出来上がった。文芸部の生徒が自身のイラストをスマートフォンで加工し作成してくれた。各活動の特色も見える色鮮やかなものが完成した。これを島内の施設や店舗に掲示していただけるか依頼に行く。地区ごとの一覧表を見ながら、実行委員が各部活動に振り分け、それぞれ担当を決めた。早速、それぞれが時間を見つけ依頼に行く姿が見られ、PRすることができた。(各学校や後援先には職員で送付した)

#### ウ 担当の先生との打ち合わせ

実行委員がステージ部門(吹奏楽部・郷土芸能部・放送部)、展示部門(美術部・文芸部・工業技術研究部・商業クラブ・書道選択)に分かれ、さらに細かく役割分担を行う。係ごとに職員を配置し、実行委員の生徒と打ち合わせを行う時間を設けた。その後、必ず実行委員は部活内で情報を共有させた。係を細分化させることで、その業務に対する責任感がより強まったように感じる。

#### (例)ステージ部門の場合

ステージ進行	芸術科(音楽)職員	アナウンス・原稿作成	放送部とA顧問
		MC・インタビュー	吹奏楽部・郷土芸能部とB顧問
		舞台転換・配置図準備	吹奏楽部・郷土芸能部とC顧問

## エ 全体合唱へ向けて

ステージ部門プログラムの最後に吹奏楽の演奏をバックに、出演者全員が舞台上がり「ふるさと」を合唱する。鑑賞する本校生にも大きな声で歌って参加してほしいという思いがあった。そこで、生徒実行委員会でも話題を振り、練習時間等どうするか検討する。芸術があるクラス(1年生と2年家政科)は授業の一部を使って練習を取り入れることは可能と伝えた。「それ以外のクラスはどうするか」と考えるように促すと「クラスにCDを配る」、「掃除の時間の音楽にしてみよう」など、積極的な意見が出た。これらの提案を受け、芸術の授業では、最初に美術・書道選択者も音楽室に集まり、歌の練習を20分ほどしてからそれぞれの教科の学習へ入ってもらうようにした。また、掃除の音楽を2週間変更して流してもらった。総文祭への期待感を学校全体として高めることができ、より多くの生徒に親しんでもらうことができた。

## (5) 1月～前日まで

### ア 自分たちで宣伝②

1週間前になると、後援先のマスコミ団体から取材の依頼が来るようになった。ラジオ局から「生放送で総文祭の宣伝や意気込みを話してみないか。」とお電話をいただいた。実行委員に話をし、各部活やってみみたい生徒、行けそうな生徒を募ると、吹奏楽部2名、放送部2名、郷土芸能部1名、美術部2名の参加があった。

18時に集合し、打ち合わせ、18時半にオンエア。喋ることが得意な人もいれば、苦手な人もいるが、生放送ということで、ブースに入ると全員が緊張していた。「笑顔」「リラックス～」と引率している職員も親心で見守る。時報が鳴り、いざスタート！パーソナリティーの方は優しく、生徒の考えや気持ちを引き出すような質問のされ方や語り口調で、始終和やかな雰囲気だった。生徒も事前に書いたメモを読みながら、落ち着いて話をすることができていた。終わると「お疲れ様～」と充実感であふれた表情の生徒たち。最後に写真をバシヤリ。いい笑顔です。(写真4)

学校に残っている部員もラジオを聞いていたようで、「いつも身近にいる部員の声がラジオから聞こえて嬉しかった。」と話をしてくれた。「もうすぐなんだな」と意欲が高まる。



【写真4】あまみエフエムさんで生放送に出演！見所など宣伝！

## イ 生徒・職員合同の実行委員会

いよいよ目前に迫ってきた。これまで生徒実行委員会5回、職員実行委員会を6回計画し、準備を行ってきたが、最後は生徒と職員合同で実行委員会を開くことにした。資料の情報に頭がパンクしそうになりながらも、業務に関わる人全員で全体の流れ・部門ごとの流れを確認した。期待と不安でいっぱいの子供たちだったが、職員と一緒に打ち合わせをすることで、一つ一つ丁寧に確認ができ、スケジュールの見通しを立てることができた。

## ウ 前日の準備

終礼が終わると、すぐに部門ごとに準備と最終確認に取り掛かった。

美術部は会場に行き、パーティーションの組み立て方を習い、明日自分たちが指示できるよう気持ちも整える。文芸部は、実技講習会の会場を準備する。講習会参加の有無に限らず、協力して作業する姿が見られた。美術室からデッサンのために運んできたリアルな模型が並ぶ。工業技術研究部や商業クラブも作品の搬出準備に取り掛かる。書道選択者は集まる時間が少ないこともあり、補習が終わってから揮毫大会の練習を頑張っていた。

吹奏楽部、郷土芸能部、放送部は自分たちの発表練習に加え、運営面での舞台上の動きやMCの確認を行ったり、道具や楽器の搬出をしたりした。

いっぱい食べて、よく眠り、明日は頑張ろうという気持ちで、この日は解散した。

## (6) 一日目

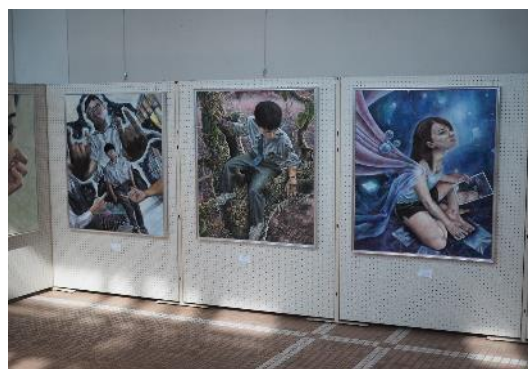
さあ、いよいよ開幕。天気は晴れ。7:50に会場に到着すると、すでに多くの生徒が待機していた。適度に緊張感をもちながら早めに来てくれていることが嬉しかった。他の離島からの学校も続々と到着し、いよいよ始まるんだなという実感がわいてきた。

職員打ち合わせの後、それぞれの部門ごとに分かれての活動になる。

展示部門は今日が本番と言っていいほど、午前から大忙し。美術・文芸・工業技術研究部はパーティーションを組み立て、それぞれの学校ごとのスペースで展示作業を行う。(写真5～8)展示計画案を作っていたが、実際並べてみると作品数や大きさが異なったり、必要なスペースが足りなかったりと微調整に苦戦したようであるが、各学校の協力もあり、時間内に終わることができた。同じ絵画作品でも、人によって、もしくは学校によってタッチやニュアンスが全く異なり、個性が出ていて、見ていて面白い。



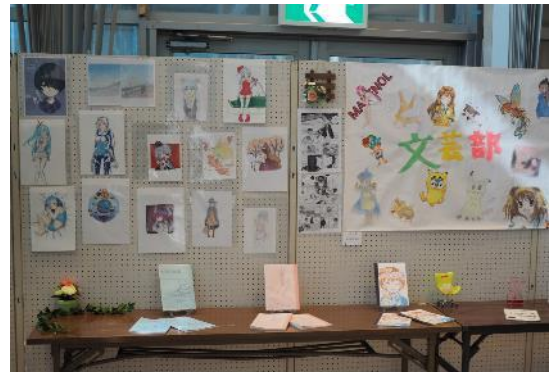
【写真5】美術部作品展示



【写真6】他校の作品も力作が並ぶ



【写真7】工業技術部の展示準備の様子



【写真8】文芸部作品展示

午前中、書道だけは別行動で、三儀山体育館で揮毫大会が行われた。当初は、文化センター内のギャラリーで実施予定だったが、改修工事のため使用できなくなるといったアクシデントもあったが、どうにか当日を迎えられた。揮毫大会は、事前に行った作品でなく、会場に向いて制限時間内に課題の作品を書き上げる。日々の練習と技術、集中力、気力、平常心など様々な要素が試される大会である。本校には書道部はないが、毎年、芸術の書道選択者の中から力を発揮している生徒を6人ほど参加させている。放課後の補習が終わった17時から限られた時間の中で、この揮毫大会に向けて準備をしてきた。生徒たちはもちろん、その場で書を書き上げ、評価してもらうのは初めての経験であるが、練習の成果を発揮できたようだ。(写真9、10)



【写真9】真剣に揮毫する生徒たち



【写真10】本校書道選択者も作品に熱が入る

午後からは、美術部と一部の文芸部の生徒に対して、美術実技講習会が行われた。奄美高校大会議室と美術室で行われ、石膏デッサンと人物デッサンに分かれ、島外から招聘した外部講師や各学校美術教員の指導の下、長時間に渡って細かなところまでこだわって描く。先生方は、生徒の個性を尊重しつつ、さらに良くなるようアドバイスをする。自分のデッサンが徐々に変化する過程を楽しみつつ、仕上げに入る。何事もそうだが、技術力を向上させるためには、基本が大事とのこと。線の描き方から練習する習慣が必要であり、何度も練習して身に付ける。この日も5時間ほど描き続け、慣れないデッサンに集中力が切れてしまったり、腕が筋肉痛になったりという生徒もいたが、諦めず根気よく続けることで必ず力は付いてくると思う。この経験をこれからの制作に生かし、どんどんレベルアップしてほしいと願う。(写真11、12)



【写真 11】 モデルを見ながらひたすら描く



【写真 12】 講師からの的確な助言をいただく

ステージ部門は一日リハーサル。古仁屋高校とも打ち合わせを行い、それぞれの持ち場へ向かう。舞台係(吹奏楽・郷土芸能部)は、舞台配置図を元に、変更がなかったか他校の顧問に確認を行い、譜面台や椅子を出し入れしたり、床に場ミリテープを貼ったりした。特に、リーダーを担当した生徒は、自ら気になったことを担当職員に質問し、一つ一つ確認をすることで、突然の変更にも臨機応変に対応できた。また、他の部員と「Aさんは1列目、Bさんは2列目ね。」などさらに細かく役割を分担したり、声を出して指示したりする姿が見られ、生徒の主体的な関わりが見られてよかった。アナウンス(放送部)やMC・インタビュー(吹奏楽部・郷土芸能部)など、各自用意してきたことを実演しながら打ち合わせる。声の大きさや表情の付け方など、慣れないことに恥じらいをもつ生徒もいたが、互いに励まし合いアドバイスする姿が見られ、良いステージを創り上げようという気持ちが伝わってきた。

最後の方で、奄高・古高オープニングのリハもできた。書道の豊田教諭の熱心な御指導の下、揮毫するタイミングや立ち振る舞いなど確認をする。装飾も各部活の代表者とどのタイミングで入場し、どの辺りに貼るといふのを打ち合わせる。前日しかみんな練習できず、生徒にとっても一番不安な演目だったと思うが、この時間で確認できたことで、安心して本番に臨むようにと生徒に伝えた。

## (7) 二日目

さあ、二日目開幕。天気は晴れ。この日も最初に職員の打ち合わせ。二日目から参加の学校もあり、職員同士も「はじめまして」や「久しぶり」の挨拶で賑わう。

この日は9時より総合開会式があった。最初に実行委員長の生徒が、ステージ中央で挨拶する。とても緊張していたようだが、歓迎の言葉や総文祭へ対する意欲を堂々と発表することができた。続いて諸連絡。来年度交流フェスタが大島大会として地区の総文祭と兼ねて行われることが決定していることもあり、その説明を行った。地区の総文祭も30年の節目を迎える。運営に当たり、特に現1年生は中心となって担当校だけでなく、全学校の協力が必要であるということを伝えると、多くの生徒が頷きながら聞いてくれ、頼もしさを感じた。きっとこのメンバーなら、大きなことを成し遂げ成功させてくれるだろう。楽しみである。開会式が終わり、部門ごとの活動に入る。ステージ部門は、二日目から参加する団体のリハーサルが始まる。

展示部門は、デッサン講評と作品鑑賞会。デッサン講評では、外部講師の先生が、一つ一つの作品に対して、良い点やアドバイスをしてくださる。自分とはまた異なる視点からの講評もあり、

生徒は頷きながらメモをとる。作品鑑賞会では、最初に本校工業技術研究部の発表を鑑賞する。(写真13)その後、A～Gの7班に分かれ、グループごとに個々の作品の前で、テーマや技法、工夫した点等について発表し、質疑や感想を述べ合う。本校生徒がグループのリーダーとなり、進行する。開始前は慣れない役割に戸惑っていたが、生徒同士ということでリラックスして楽しく進められたようである。互いの作品を鑑賞し、批評し合うことで、自分の作品への理解が深まり、今後の制作意欲が高まる。(写真14、15、16)



【写真13】 みんな大注目の工業技術研究部



【写真14】 他校生と笑顔で交流



【写真15】 進行を担当した本校生



【写真16】 先生方もアドバイス

10:40 から参加者全員で全体合唱のリハーサルを行う。吹奏楽の演奏者とそれ以外の合唱者の配置など確認をする。全員で合わせるのはほぼ初めてであるが、2回ほど通して練習ができた。

昼食時には大島高校茶道部の呈茶が開かれ、お茶やお菓子を振る舞う。ゆったりした空間に来場者も癒やされたようだ。(写真17、18)



【写真17】 来場者に丁寧なおもてなし



【写真18】 会話を楽しむ様子



昼食後は、いよいよステージ部門の本番である。大島支部長である堀之内校長と実行委員長の生徒の開会の挨拶が終わり、いよいよスタート！（写真 19, 20）



【写真 19】大島支部長挨拶



【写真 20】生徒実行委員長挨拶

【プロ 1】 オープニング。嵐の「ふるさと」が流れ緞帳が上がると、奄高・古高の書道部(本校は選択者)が正座をして一礼する。その後、「第 29 回大島地区高等学校総合文化祭」と割り振られた文字を横断幕に揮毫していく。一発限りの勝負という点では、音楽と似ているかもしれない。緊張感をもちながらも筆を大きく使い、力強く書く。書く！書く！！次に、各部活動の代表者がお花を装飾する。題字の墨の黒色とお花の瑠璃色のバランスが良い。最後にみんなでお客様に披露して完成。拍手がわき起こる。オープニングをやるに当たり、様々な意見が出たり、準備が大変な面もあったが、「やって良かった！」この一言に尽きた。(写真 21)

【MC等】 演目の前に放送部による紹介、演目の間にMCからインタビューが入る。緊張しつつも大きな声で、時には笑いを交えながら楽しくつながることができた。場面転換では声を掛け合ってセッティングを確認した。特に吹奏楽部生は、定期演奏会で椅子や楽器を動かすときに声や足音が響いてしまい先輩から注意され悔しい思いをしたことがあった。今回はその失敗を生かし、状況をよく見て機敏に行動し必要以上の音を出さないようにと配慮した動きだった。失敗から学ぶことができて良かった。(写真 22)

【プロ 2】 徳之島藏越エイサー隊。紅蓮色の格好良い横断幕が掲げられ、「島唄」に合わせて心地よい太鼓の音が響く。2曲目の「徳之島ワイド」では、力強さが加わり、全身全霊でパフォーマンスする姿が印象的だった。(写真 23)

【プロ 3】 奄美高校郷土芸能部。紬を身にまとい、声高らかに島唄を歌い上げ、会場全体に歌声が響き渡る。六調では、三味線と太鼓の前奏に続き、歌と動きで魅せる。会場のお客さんも踊りたくてウズウズするようなパフォーマンスだった。(写真 24)

【プロ 4】 奄美高校放送部。「けんむんのがぶとり」を朗読劇。1年生 4 人、初めての参加である。美術部が描いた原作の絵がスクリーンに映し出される。一人一人丁寧な口調で朗読する。場面ごとに表情を変えながら、物語の面白さを伝えることができた。(写真 25)

- 【プロ5】 沖永良部・与論高校吹奏楽部。定例化しつつあるこの合同バンド。互いの島に複数回遠征し練習したとのこと。特に印象的だったのが、2曲目「笑点のテーマ」。寸劇を入れた演出。自分たちで台本を作り、小道具(座布団や扇子等)も用意し、会場を笑いの渦に巻き込み、演奏間の良いブレイキングタイムとなっていた。仲の良さが伺えるような演奏だった。(写真26)
- 【プロ6】 喜界・徳之島高校吹奏楽部。こちらは初めての合同バンド。事前に集まって練習することが難しく、前日と本番のみと集中的に懸命に練習に取り組む。「吹奏楽のための犬夜叉」は、原作やアニメが完結して時間が経つが、生徒にも人気がある1曲で嬉しそうに演奏している奏者の姿が心に残った。指揮者の先生とコンタクトを取りながら和の雰囲気や大事に演奏していたのが伝わった。「昭和アイドルコレクション」では、かわいらしい企画もあり、前半盛り上がり過ぎて終えた。(写真27)
- 【プロ7】 沖永良部高校エイサー部。「あしびな」、「手と手」など島唄とJ-POPを交えた4曲を披露する。部員も16人と郷土芸能部門の中では一番多い。ひな壇の上に唄者と三味線を配置し、いろいろな演奏の仕方があるのだと勉強になる。笑顔で楽しく、躍動感あるパフォーマンスが光っていた。(写真28)
- 【プロ8】 大島北高校北大島太鼓部。奏者10人、互いに息づかいを感じながら、力強い音や落ち着いた音など緩急を付けた演奏だった。一音一音「ドン」と太鼓を鳴らす喜びを全身で表現し、リズム・テンポを奏者全員で共有しながら仲間との絆の強さが垣間見えるような演奏だった。(写真29)
- 【プロ9】 大島北高校ダンス部。振り付けからフォーメーションまで試行錯誤しながら作り上げてきたとのこと。ステージに3人並び、ミュージックスタート!曲想に合わせて、キレの良い男性的な表現であったり、優雅な女性らしい表現だったり、観客の想像をかき立てるようなダンスだった。(写真30)
- 【プロ10】 大島高校放送部。ラジオ作品をスクリーンに映し出し、2本放映した。映像も自分たちで編集・制作し、自分たちの周りを取り巻くような問題を取り上げた作品で観客も真剣に見入っていた。(写真31)
- 【プロ11】 奄美・大島・大島北・古仁屋高校吹奏楽部。11月の演奏会からこの日まで、4校合同バンドとして一緒に練習をしてきた。「眩い星座なるために」、「宝島」は11月の演奏会で練習してきたが、「魔女の宅急便セレクション」と「ジャパニーズグラフィティXIV(嵐メドレー)」は2回の合同練習で集中的に仕上げた。途中、奄美高校吹奏楽部の企画係が考えた演出が入り、嵐メドレーではダンサーがダンスを踊るなど、観客を飽きさせないような工夫を取り入れた。約50人の演奏はやはり迫力があり、旋律や和音の幅も広がり、多彩な音が会場に響き渡った。(写真32)

【プロ12】 フィナーレ。全体合唱である。書道部が揮毫大会の合間で書いた歌詞が吊される。これをバックに大合唱。鑑賞にきている奄高生・古高生も授業で取り組み、体を音楽に合わせて楽しみながら歌う生徒も見られ、会場が一体となった。終わった後、盛大に拍手に包まれ、終わったという達成感でいっぱいだった。(写真33)

【閉会式】 古仁屋高校校長による講評の後、実行委員引き継ぎがあった。実行委員長と副委員長計3人が挨拶し、これまでを振り返る。そして、次回担当高の沖永良部・与論高校が来年の抱負を述べた。「すでに様々な困難が待ち受けていますが、海を越えてみんなで楽しんで交流ができれば」と力強い言葉で締めくくった。(写真34)



【写真21】 奄高・古高によるオープニング



【写真22】 表情豊かに笑顔でMC



【写真23】 徳之島高校エイサー隊



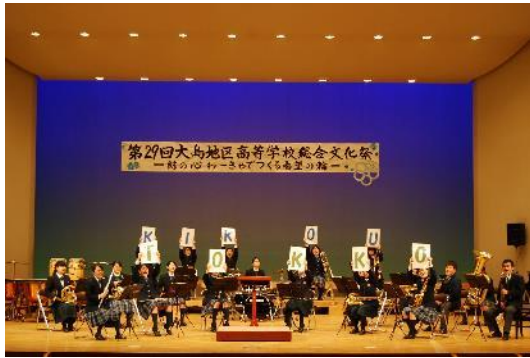
【写真24】 奄美高校郷土芸能部



【写真25】 奄美高校放送部



【写真26】 沖永良部・与論高校吹奏楽部



【写真 27】 喜界・徳之島高校吹奏楽部



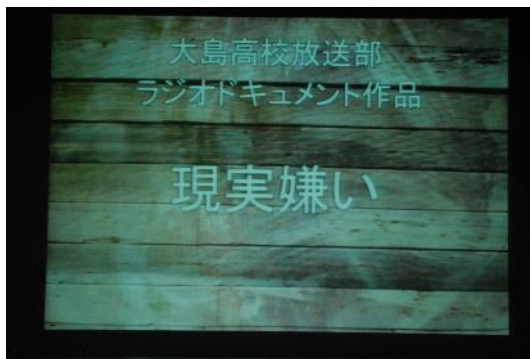
【写真 28】 沖永良部高校エイサー部



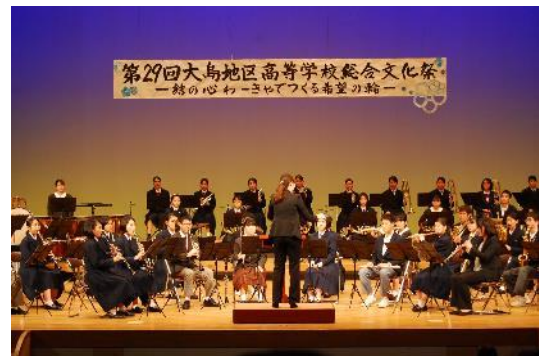
【写真 29】 大島北高校北大島太鼓部



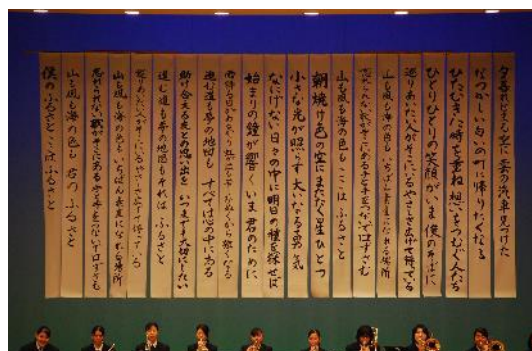
【写真 30】 大島北高校ダンス部



【写真 31】 大島高校放送部



【写真 32】 奄美・大島・大島北・古仁屋高校吹奏楽部



【写真 33】 書道部が揮毫した歌詞



【写真 34】 フィナーレ（全体合唱）

(8) おわりに

今回、担当校ということで、約1年間掛けて準備に取り組んできた。生徒・職員実行委員会を機能させ、早めの時期から組織的に協力し合って取り組めたことが成功につながったと感じている。「やり切った。」「実行委員ができて良かった。」という言葉を受けて、生徒たちも達成感・充実感でいっぱいのような様子だった。他者と意見が食い違い悩んだこと、注意を受けて悔しかったこと、褒められて嬉しかったことなど、この経験をこれからの学校生活に生かし、協働し、助け合い認め合いながら、人間としてどんどん成長してほしい。また、それぞれの部活動はさらに活動を広げ、島内の芸術文化の発展に寄与し、島を盛り上げていてもらいたいと願っている。

今後、気になること。今年度はどこの高校の吹奏楽部も合同バンドを組んでいた。少子化や部活加入率の低下で部員数が相対的に減ってきているのではと少し寂しさを感じる。しかし、人数の少なさをデメリットとするのではなく、いつもより大きな編成で音楽ができるチャンス、さらに他校と交流できる機会としてどの団体も前向きに捉え、楽しそうに活動する姿が見られた。先生方の輪がきっかけで、生徒たちの輪もどんどん広がる。とても素晴らしいことだと思う。

この度は大変貴重な経験をさせていただきました。私自身、教師としてワンステップ成長できたと実感しております。文化系部活動をはじめ、関わってくださったすべての先生方、関係機関の皆様、そして何よりも生徒のみんなにこの場を借りて御礼申し上げます。来年の交流フェスタも大島大会も成功させましょう。



奄高・古高生全員集合！

実行委員の生徒の皆さん、先生方本当にお疲れ様でした。